

吉野川流域へのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況と関連する取組について

1. 吉野川流域へのコウノトリ・ツル類の飛来・生息状況【平成 29 年 11 月～平成 30 年 12 月】

(1) コウノトリ

【飛来・生息状況】

- ・平成 29 年 10 月から巣材搬入が確認され、平成 30 年 2 月 6 日に抱卵。
 - ・昨年に続き、鳴門市大麻町の営巣地で繁殖に成功し、平成 30 年 5 月には **2 羽が巣立ち**。
 - ・雛はいずれも雌で、鳴門市による公募により、「歌」（うた）と「百」（もも）に愛称が決定。
※雛の愛称は第九 100 周年記念の年にちなみ命名、6 月 1 日には、鳴門市が特別住民票を交付
 - ・鳴門市周辺ではコウノトリの飛来数が増加し、平成 30 年 10 月 30 日には、鳴門市周辺で **最大 24 羽が確認されている**。
 - ・主に鳴門市大麻町・大津町、松茂町中喜来で観察され、藍住町や北島町にも飛来している。
- #### 【死亡事故等】
- ・平成 29 年 3 月に大麻町で生まれた「あさ」が、体に強い衝撃を受けたことによる出血性ショックで平成 30 年 2 月 7 日に死亡。平成 30 年 11 月 10 日には大麻町で両脚が骨折した雄の個体が発見され、11 月 15 日に死亡が確認されている。また、平成 30 年 11 月 23 日には、右脚を骨折している雌の個体が発見されている。

(2) ツル類

【平成 29 年度の渡来状況】

- ・平成 30 年 1 月下旬から 2 月中旬にかけて、ナベヅル 3 羽が阿波市吉野町の吉野川の砂州をねぐらとして、周辺の農地を採食場として利用。

【平成 30 年度の渡来状況】

- ・平成 30 年 11 月に鳴門市大麻町のハス田周辺に 3 羽のナベヅルが飛来。
※鳴門市大麻町ではコウノトリと一緒に観察されており、**希少なコウノトリとナベヅルが一緒に見られるのは、大変珍しい。**
 - ・平成 30 年 10 月には吉野川の河口の干潟でもナベヅル 7 羽が確認されている。
- #### 【越冬に向けた課題】
- ・平成 29 年、30 年度とも少数の飛来で確認日数も少なく、越冬には至っていない。阿波市の吉野川の砂州では落ち鮎漁との調整、吉野川河口の干潟では散歩者の立入の抑制等が課題。
※落ち鮎漁や散歩等で人が川に立ち入ることで、ツルのねぐら（砂州や干潟）が攪乱を受ける。



子育ての様子（鳴門市大麻町）



巣の上の雛（鳴門市大麻町）

写真提供：日本野鳥の会徳島県支部三宅支部長



ナベヅル（奥）とコウノトリ（鳴門市大麻町）

写真提供：日本野鳥の会徳島県支部三宅支部長



採食中のナベヅル（鳴門市大麻町）

写真提供：日本野鳥の会徳島県支部三宅支部長



ハス田で採食するコウノトリ（左奥にもう 1 羽いる）
（松茂町中喜来）



ハス田で集まって採食するコウノトリ（鳴門市大津町）
写真提供：日本野鳥の会徳島県支部三宅支部長



吉野川河口の干潟で確認されたナベヅル
写真提供：日本野鳥の会徳島県支部三宅支部長

2.関連する取組【平成 29 年 11 月～平成 30 年 12 月】

(1) 生息環境づくりに関する取組

■コウノトリの人工巣塔の設置

平成 30 年 3 月 28 日に、鳴門市大津町にコウノトリの人工巣塔が徳島県内で初めて設置されました。人工巣塔の設置にあたっては、他のペアとの縄張りとはならないよう計画的に配置されています。また、設置にあたっては、地域の住民の方に事前の説明会が実施されています。

【取組主体：徳島県、コウノトリ定着推進連絡協議会】



徳島県で初めて設置されたコウノトリの人工巣塔

上：地域への説明会の様子
下：人工巣塔の設置の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会
ウェブサイト

■コウノトリの観察スペースの設置

平成 30 年 4 月に、大麻町のコウノトリの巣の南約 400 メートルにコウノトリの観察スペース（約 9 平方メートル）が設置されました。なお、観察スペースの設置は、昨年度鳴門市により実施された、ガバメントクラウドファンディングで集まったお金が活用されています。【取組主体：鳴門市】



観察スペースで観察する観察者

観察スペース

■休耕地の湛水によるピオトープの整備と水田魚道の設置の継続

鳴門市大麻町のコウノトリの営巣地付近で、2 箇所のピオトープが継続して整備され、ピオトープへの水田魚道を継続して設置しています。また、ピオトープの維持管理活動が継続して行われています。

【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会、地域の農家】



整備されたピオトープ(写真中央部)

休耕地に湛水したピオトープ

■来訪者の接近や車両乗り入れの自粛の要請の継続

コウノトリへの接近自粛要請の看板の設置や警備員の配置、来訪者用の新たな駐車場の設置等が継続して行われています。【取組主体：鳴門市、コウノトリ定着推進連絡協議会】



接近自粛要請の看板

駐車スペースの案内看板

(2) 地域・人づくりに関する取組

1) 農業振興

■「コウノトリれんこん」の生産拡大

「コウノトリおもてなし」認証を受け、かつ農林水産省のガイドラインに沿った「特別栽培」による「コウノトリれんこん」の生産が継続されるとともに、生産者が増加しました。

(※取組農家戸数は昨年より11戸から20戸に増加)

【取組主体：地域の農家、JA 徳島北、鳴門市】

引用：鳴門市



■「スーパーマーケット・トレードショー2018」への出展

コウノトリ定着推進連絡協議会が、平成30年2月14～16日に東京・幕張メッセで開催された、「スーパーマーケット・トレードショー2018」にコウノトリ関連商品(コウノトリれんこんカレー、れんこん葉茶等)を出展しています。【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会】



「スーパーマーケット・トレードショー2018」への出展の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト

■物産品の開発・販売

JA 徳島北が「コウノトリおもてなし」認証を受けたれんこん葉茶を物産品として販売するとともに、JA 徳島北と全農の通販サイト「JA タウン」が「コウノトリれんこん」の通販に取り組んでいます。

また、株式会社鳴門のいも屋が「幸の鳥巣立ちバウム」(鳴門金時の焼芋ペーストを生地に練り込んだバウムクーヘンをコウノトリの巣に見立てたお菓子)を開発し、販売しています。

【取組主体：JA 徳島北、株式会社鳴門のいも屋】



れんこん葉茶
徳島阿波おどり空港にて



幸の鳥巣立ちバウム
ありい商店 金時工房にて

2) 観光振興

■観光パンフなどへの利用

鳴門市の観光ガイドブックに、コウノトリが紹介されています。また、板東地区自治振興会は、板東地区を紹介する「BANDO てくてく MAP」にコウノトリの観察ポイントを紹介しています。

【取組主体：鳴門市、板東地区自治振興会】



幸せを運ぶ鳥「コウノトリ」が
安心して住み続けるまち

平成27年2月頃に、鳴門市のレンコン畑にコウノトリの雛が産卵。平成29年3月末には、コウノトリの野生復帰に貢献した農業者等とその周辺を以て、全国初となる野生のコウノトリのひなが誕生しました。幸せを運ぶといわれるコウノトリの伝承により、鳴門市では子どもに特別住民票を交付するなど、観光にも取り組んでいます。清潔な土壌にしか住めないといわれているコウノトリが住める環境であることは、それは人間にとっても、安全で安心な自然豊かな環境であるといえます。コウノトリにも、人にも優しい環境を鳴門市に、定着させていきたい。

鳴門市の観光ガイドブックとガイドブックの1ページ目に紹介されているコウノトリ

引用：鳴門市観光ガイドブック



「BANDO てくてく MAP」で紹介されているコウノトリの観察ポイント

引用：BANDO てくてく MAP

3) 活動資金等の調達

(一財)日亜ふるさと振興財団から、コウノトリ定着推進連絡協議会の水辺環境整備等の活動に対し、助成がされています。また、JA 徳島北から、コウノトリ定着推進連絡協議会へ寄附金が送られています。また、平成 28 年度から、環境省の地域循環共生圏構築に向けた実証地域における活動団体として、コウノトリ定着推進連絡協議会が採択されており、多様な主体によるプラットフォームづくりや経済的な仕組みづくり等について、引き続き支援が行なわれています。

【取組主体：(一財)日亜ふるさと振興財団、JA 徳島北、環境省】

4) 理解と関心の向上

■「こうのとりのイラストコンクール」の実施

コウノトリの定着に向けた取組への理解をより深め、地域を挙げた取組への発展と県内外へのアピールを目的に「こうのとりのイラストコンクール」が平成 30 年 1 月に実施されています。また、公共スペース等で応募作品の展示が行なわれています。【取組主体：徳島県、コウノトリ定着推進連絡協議会】



コンクールのちらし



応募作品の展示の様子

引用：徳島県ウェブサイト

■「親子コウノトリ観察会」の開催の継続

「親子コウノトリ観察会」が継続的に開催されています。5 月 26 日には、「第 4 回親子コウノトリ観察会」が開催され、板東南ふれあいセンターでの室内学習の後、野外へ出てコウノトリの観察、用水路で水生生物の観察会が行なわれました。【取組主体：コウノトリ定着推進連絡協議会】



室内で学習の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト



水生生物の観察の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト

■「コウノトリ育む鳴門の人、環境、農業にふれるコウノトリ生息環境の現場学習会」の開催

コウノトリやコウノトリが生息する環境について、地域資源としての可能性を探ることを目的に、地方創生に取組む銀行（阿波銀行、徳島銀行、JA バンク 徳島信連）の行員を対象とした現場学習会が、平成 30 年 5 月 18 日に開催されました。当日は、現場体験として、コウノトリの観察やハス田でのレンコン掘りを体験していただいた後に、コウノトリを活用した地域づくりをテーマにグループディスカッションを行い、たくさんの意見が得られました。

【取組主体：吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会】



現場体験の様子



現場体験後のグループディスカッションの様子

<グループディスカッションでの主な意見>【平成 30 年 5 月 18 日】

- ・「板東南ふれあいセンター」を観察拠点にしてみてもどうか。屋上に望遠鏡を何台か置いてみる、天気が悪い日は屋内でカメラのモニターで見る、巣にいない時はビデオを上映するなど、来てもらった人に何らかの形でコウノトリを見てもらうとよい。
- ・最近の若者は「インスタ映え」という言葉が好きなので、レンコン畑の景色を楽しめたり、コウノトリが観察できるカフェ等があるとよい。
- ・コウノトリには「幸せな鳥」や「赤ちゃんを運んでくる」というイメージがあるので、プライダルに関連した施設の設置や、赤ちゃんのお守りを作ってみてはどうか。
- ・金融機関としてできることとして、商談会での PR、ビジネスマッチングが現実的に考えられる。
- ・体験型観光や研修に繋げてみてはどうか。高速のインターから近く、立地に恵まれていると思うので、体験型観光や、都市部の小学生の宿泊訓練のような研修型で来てもらって、レンコン掘り体験等をやってみるとよい。

■情報発信

四国放送が「フォーカス徳島」の中で、コウノトリ関連の内容を放送するとともに、NHK が「あわとく」でコウノトリの特集（コウノトリ舞う里）を放送しています。また、徳島新聞が「コウノトリ日誌」等でコウノトリに関する記事を掲載しています。また、コウノトリ定着推進連絡協議会が、ウェブサイトや SNS で協議会の取組を紹介しています。

【取組主体：四国放送、NHK、徳島新聞、コウノトリ定着推進連絡協議会】

■「コウノトリとの共生県民のつどい～コウノトリと未来～」の開催

平成30年2月4日に、コウノトリとそれを育む豊かな環境と、コウノトリの定着に向けた取り組みへの理解をより深め、さらに地域を挙げた取り組みへと進化させるとともに、コウノトリを育む豊かな自然環境を広くアピールすることを目的に、「コウノトリとの共生県民のつどい～コウノトリと未来～」が開催されています。当日は、「こうのとりのイラストコンクール」優秀作品の表彰式や、柳生博氏（日本野鳥の会会長、俳優）による講演、コウノトリの生態などを学べるコウノトリクイズ、こうのとりのイラストパネル展、レンコン試食会などが行なわれ、多くの参加者で賑わいました。

【取組主体：徳島県、コウノトリ定着推進連絡協議会】



「コウノトリとの共生県民のつどい」のちらし



コウノトリクイズの様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト

■生物調査の実施

大麻中学校自然観察チームがコウノトリ定着推進連絡協議会の指導を受けて、コウノトリの営巣地周辺の水路やハス田でタモ網を使いながら生物調査を実施し、平成30年10月28日に徳島県教育会館で開催された科学経験発表会において「コウノトリがすむ、大麻町のレンコン田、水田、ビオトープの水生物調査」を発表しました。

【取組主体：大麻中学校、コウノトリ定着推進連絡協議会】



生物調査の様子
写真提供：大麻中学校



生物調査の様子
写真提供：大麻中学校

■コウノトリの雛への足環装着

「コウノトリ足環装着プロジェクトチーム」により、コウノトリの足環装着に向けた研修会が平成30年2月22日に実施されるとともに、コウノトリ雛2羽への足環装着が、4月24日に実施されました。【取組主体：コウノトリ足環装着プロジェクトチーム（徳島県、コウノトリ定着推進連絡協議会、とくしま動物園、四国電力等で構成）】



会場の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト



レンコン試食会の様子

引用：徳島県ウェブサイト



足環装着の研修会の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト



足環装着の様子

引用：コウノトリ定着推進連絡協議会ウェブサイト